

序 章

一 近年の対外関係史研究の状況	一
二 本書の課題と方法	三
三 唐 物	七
第一章 唐物の流通と消費	六
はじめに	一六
一 古代における唐物	一八
二 中世における唐物の輸入	二〇
1 宋・元・高麗からの唐物輸入	二〇
2 明・朝鮮王朝・琉球からの唐物輸入	二四
三 京都における唐物の消費	二六

1 宴や儀式・法要の室礼などの利用

2 法会の捧物

3 天皇・院・将軍の下賜物

4 天皇・院・将軍への進上と返礼

5 陶磁器に関する文献史料

四 島津氏・大内氏による唐物贈与

1 島津氏による唐物贈与

2 大内氏の贈答

五 「御物」の成立とその意義

1 「御物」(東山御物)の形成過程

2 「御物」の持つ意味

3 和の中の漢

六 博多・鎌倉における唐物

1 博 多

2 鎌倉(東国)

おわりに

第二章 香料の道と日本・朝鮮・琉球

はじめに

一	日本の香料輸入ルートの変遷	六
二	搭載植物からみた新安沈没船	七〇
三	第二期の香料輸入ルートと琉球	七一
四	琉球の香料貿易	七二
五	香料消費の変遷	八三
1	第一期	八三
2	第二期	八四
六	朝鮮の香料輸入とその消費	八七
1	朝鮮の香料輸入状況	八七
2	朝鮮での香料の普及	九四
おわりに		九六
第三章 大蔵経・貨幣と日本国王使		九九
はじめに		九九
一 足利義持期の日本国王使——大蔵経・大蔵経板への執着——		一一〇

二 足利義教・義勝期の日本国王使——請経使と通信使への対応——

三 足利義政期の日本国王使——特定寺院のための遣使——

四 朝鮮貨幣を求めた日本国王使

1 朝鮮における錢貨···一七

2 交易による銅錢獲得···一八

3 日本国王使による銅錢請求···一九

4 守護大名の使節による贈与要請···二三

おわりに···二七

第四章 鉄砲の生産技術の伝来

はじめに···二六

一 東南アジアへの鉄砲伝来···二三

二 鉄砲伝来に関する文献史料（一）——ヨーロッパ側史料——

二三

三 鉄砲伝来に関する文献史料（二）——日本・中国側史料——

三四

四 鉄砲の初伝をめぐる考察——『鉄炮記』の検討——

四五

1 宇田川武久説の検討···四五

2 清水紘一氏による分析···四五

3 村井章介氏による分析···四五

4 中島楽章説：

五 鉄砲製造技術の伝播とその背景

- 1 鉄砲製造の技術 一五
- 2 原材料の輸入 一五
- 3 種子島の位置——中国・琉球との貿易—— 一五
- 4 鉄砲製造の背景 一五
- 5 合戦における鉄砲の普及 一五
- 六 倭乱以前の明・朝鮮王朝と鉄砲 一六
- 七 壬申・丁酉倭乱における鉄砲の受容 一七
- おわりに——武器の輸出—— 一七

第五章 朝鮮王朝に伝えられた日本の技術

はじめに

一 朝鮮王朝による日本の技術の導入

一七

1 朝鮮王朝の技術への関心

一七

2 水車とその造法

一七

3 造船技術

一八

二 境界の交流と、技術の伝播の条件

一九

1 技術の伝播の条件

2 朝鮮鐘をめぐる境界の交流

一五
一七
一九

おわりに
一九二
一九三
一九四

第六章 中世後期における唐人をめぐる意識
一九五
一九五

はじめに
一九五

一 「唐人」の語義の変遷
一九七

二 応永の外寇と「唐人」をめぐる情報
二〇三

三 明使に対する幕府の対応
二〇七

おわりに
二一〇

終 章
二一四

一 本書の要約
二一四

二 今後の課題
二一三

引用・参考文献
二一四

あとがき
二一三